

- ・ コロナ禍からアフターコロナの影響

最新R5決算速報値も踏まえて

- ・ 施設保全の影響

- ・ 今後増加する大型事業の影響

- ・ 財政見通しについて

● コロナ禍においては好調だった実質単年度収支(その年度での収支)が

→ アフターコロナで状況は一転、大幅な減に

令和元年度：実質単年度収支	▲0.9億円	財調取崩し	4.0億円
令和2年度：実質単年度収支	12.6億円	財調取崩し	なし
令和3年度：実質単年度収支	16.3億円	財調取崩し	なし
令和4年度：実質単年度収支	0.2億円	財調取崩し	なし
令和5年度：実質単年度収支	▲8.3億円	財調取崩し	14.0億円

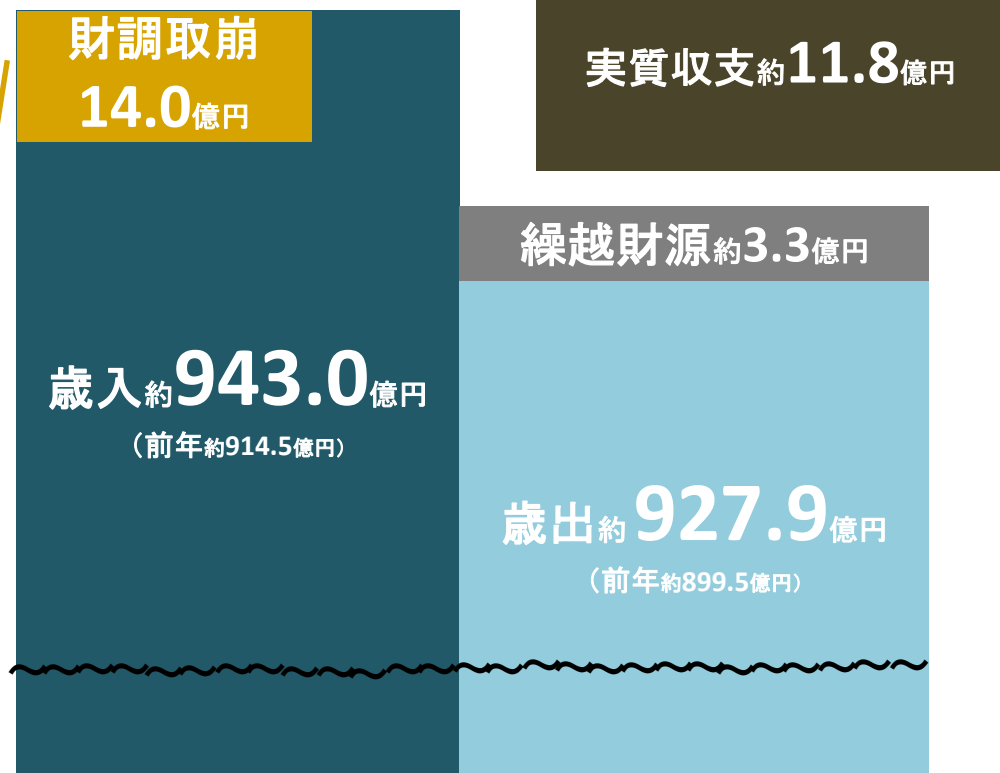
● 実質収支が好調だった理由

- ・ 医療控えなどによる扶助費の減
- ・ 国税が好調であったことによる地方交付税の増

令和5年度一般会計決算(見込み) 概要

令和元年度以来のマイナス規模はH13の11.7以来

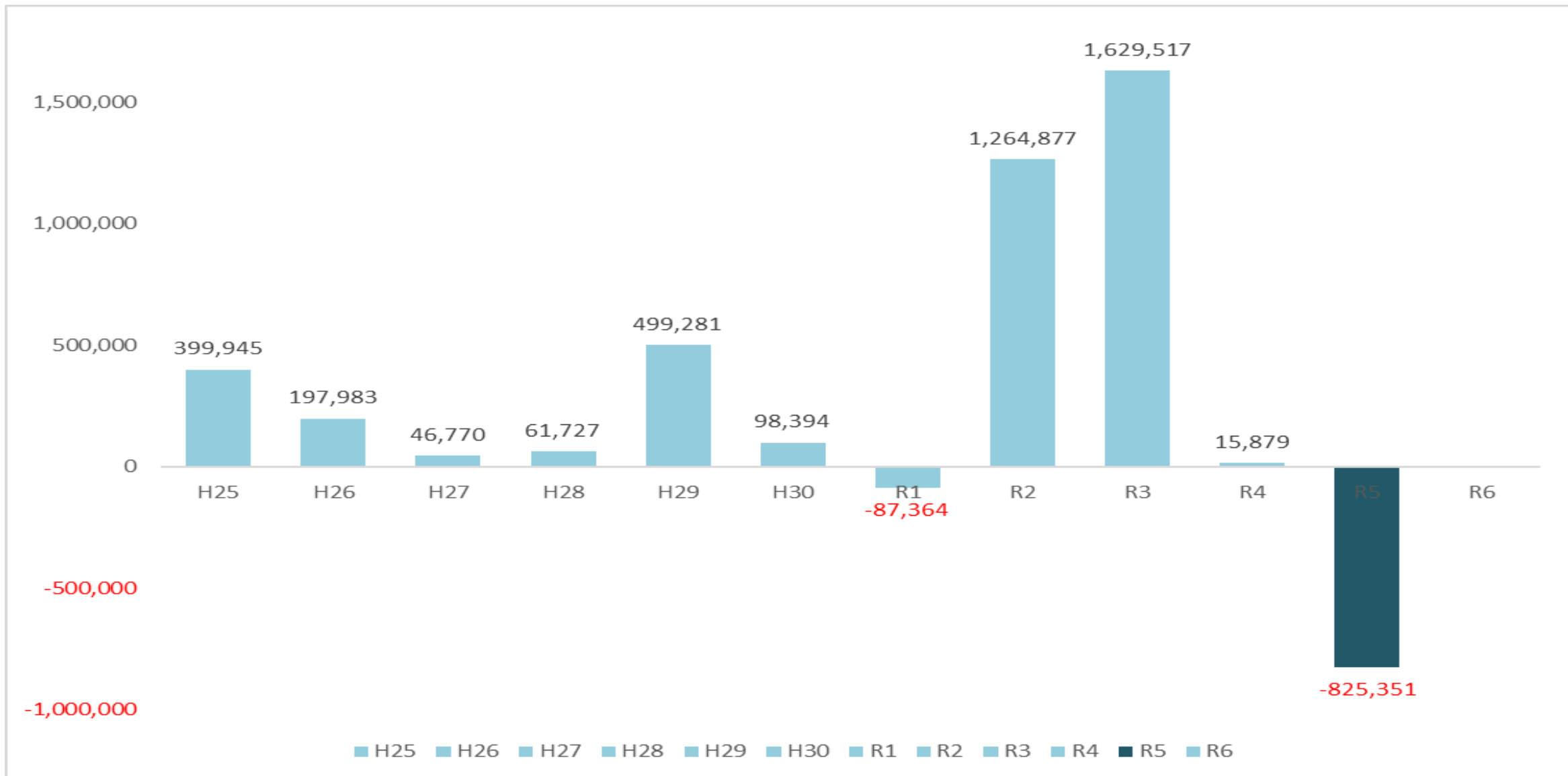
速報値



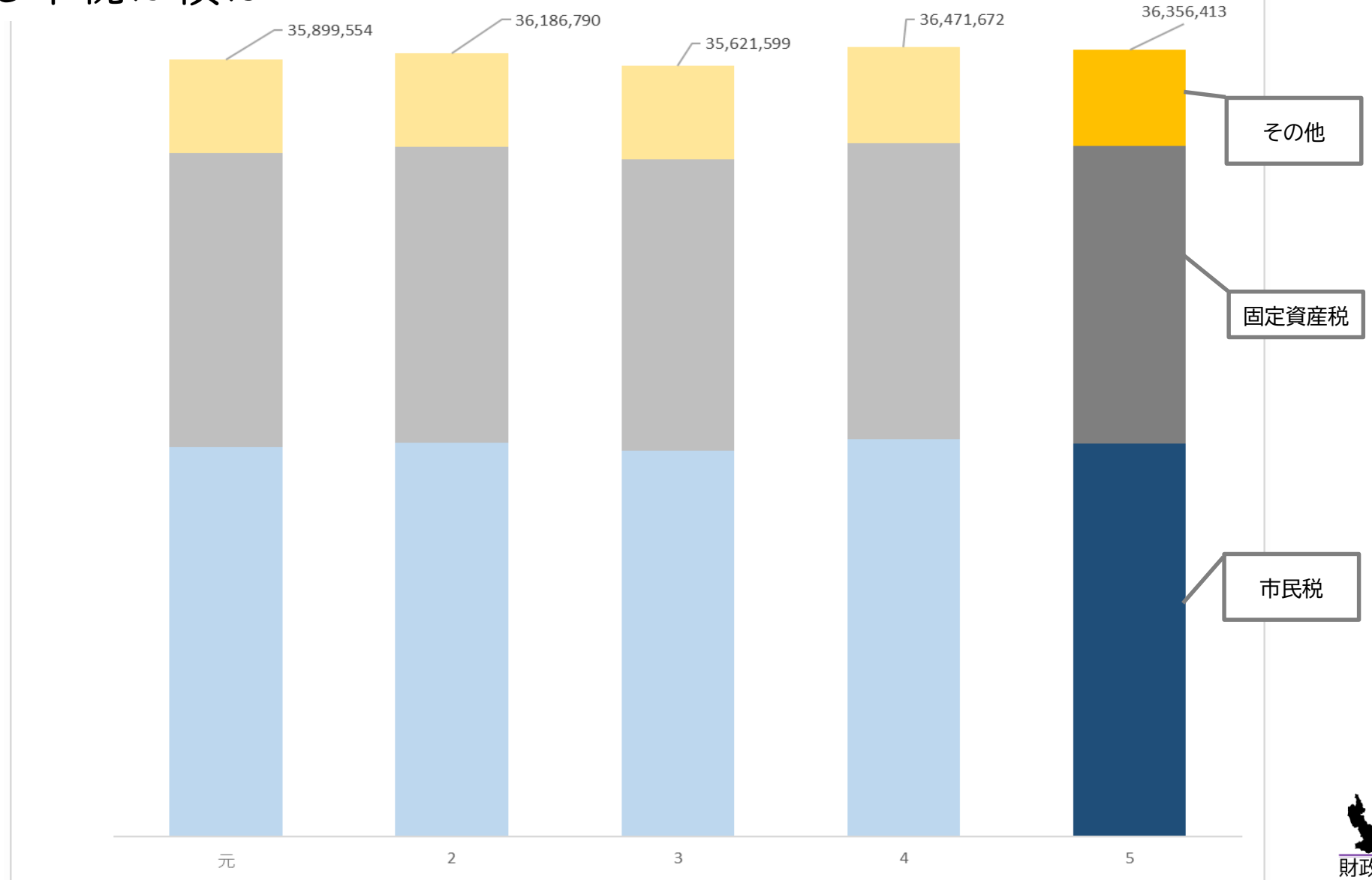
H3の30億以来の規模

	2023年度決算	対前年増減
実質単年度収支 ※財政規律でプラスが目標	▲8.3億円	▲8.4億円の減 (0.16億円)
標財規模分の財調割合 ※財政規律で10%以上が目標	14.3%	▲1.9の減 (16.2%)
経常収支比率 ※財政規律で95%程度が目標	95.8%	2.1の増 (93.7%)

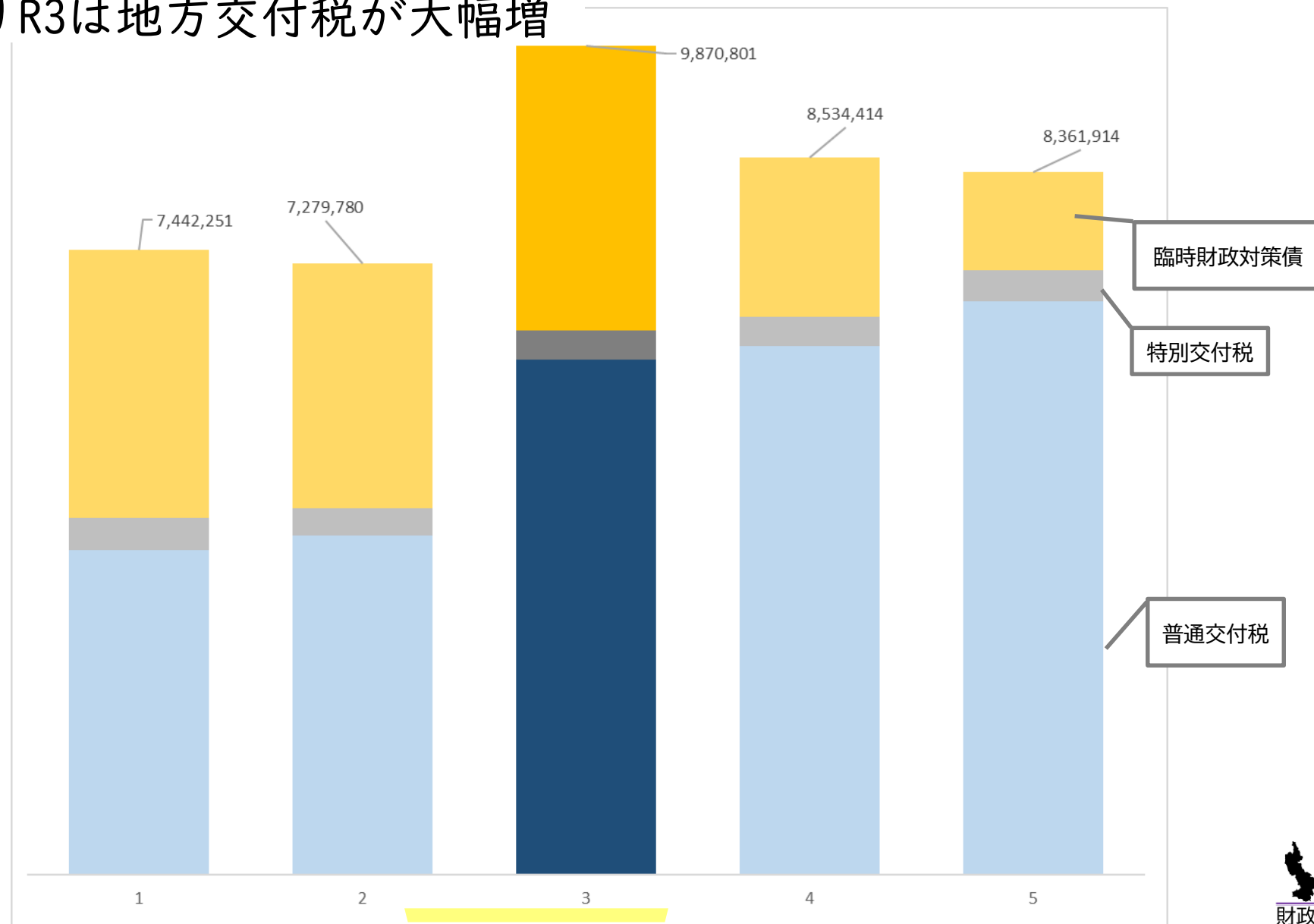
●令和5年度に実質単年度収支（その年度での収支）が大きくマイナスに



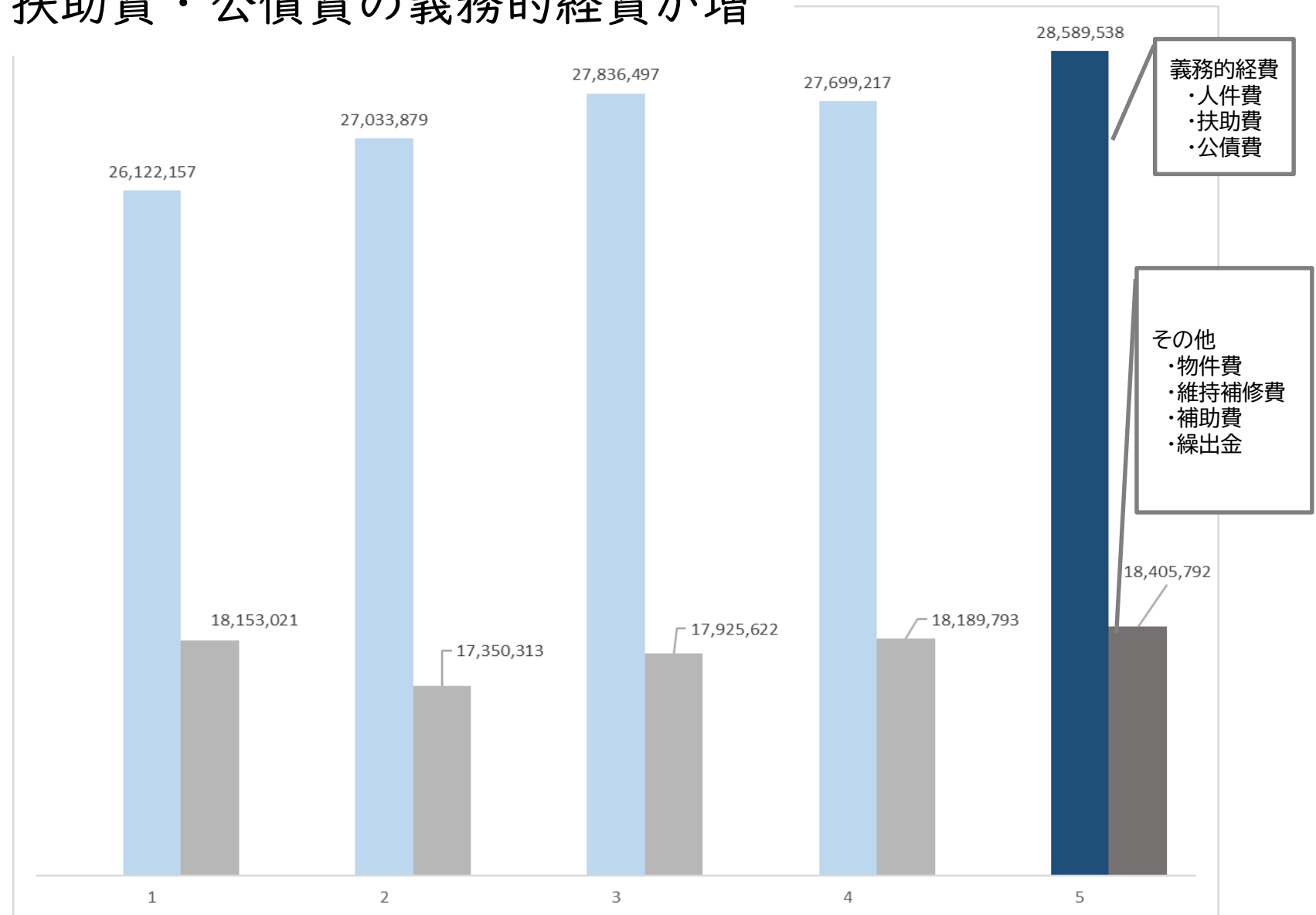
●歳入の根幹である市税は横ばい



● 国税の影響等によりR3は地方交付税が大幅増

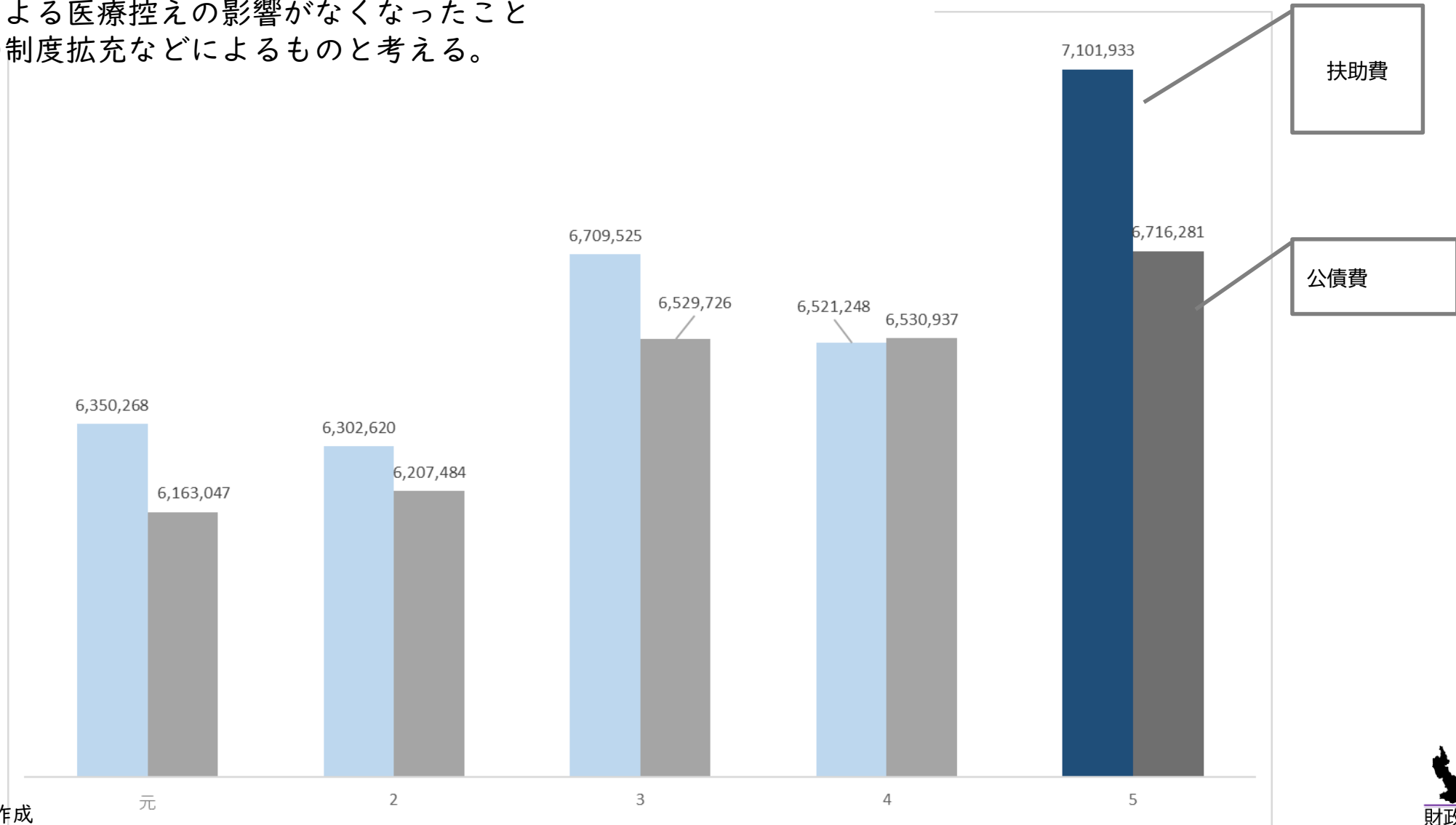


●歳出は、人件費・扶助費・公債費の義務的経費が増

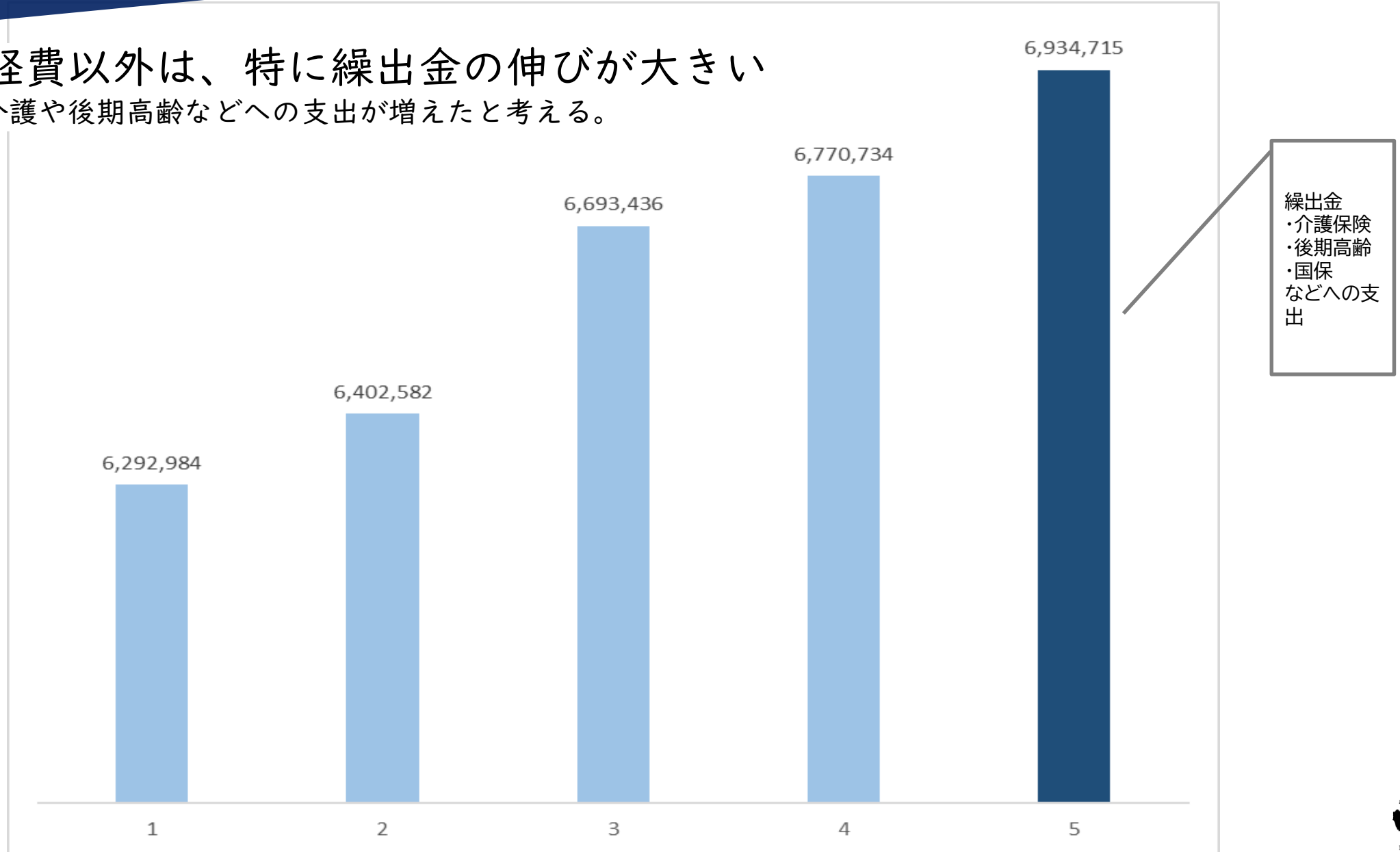


●義務的経費においては、特に扶助費の伸びが大きい

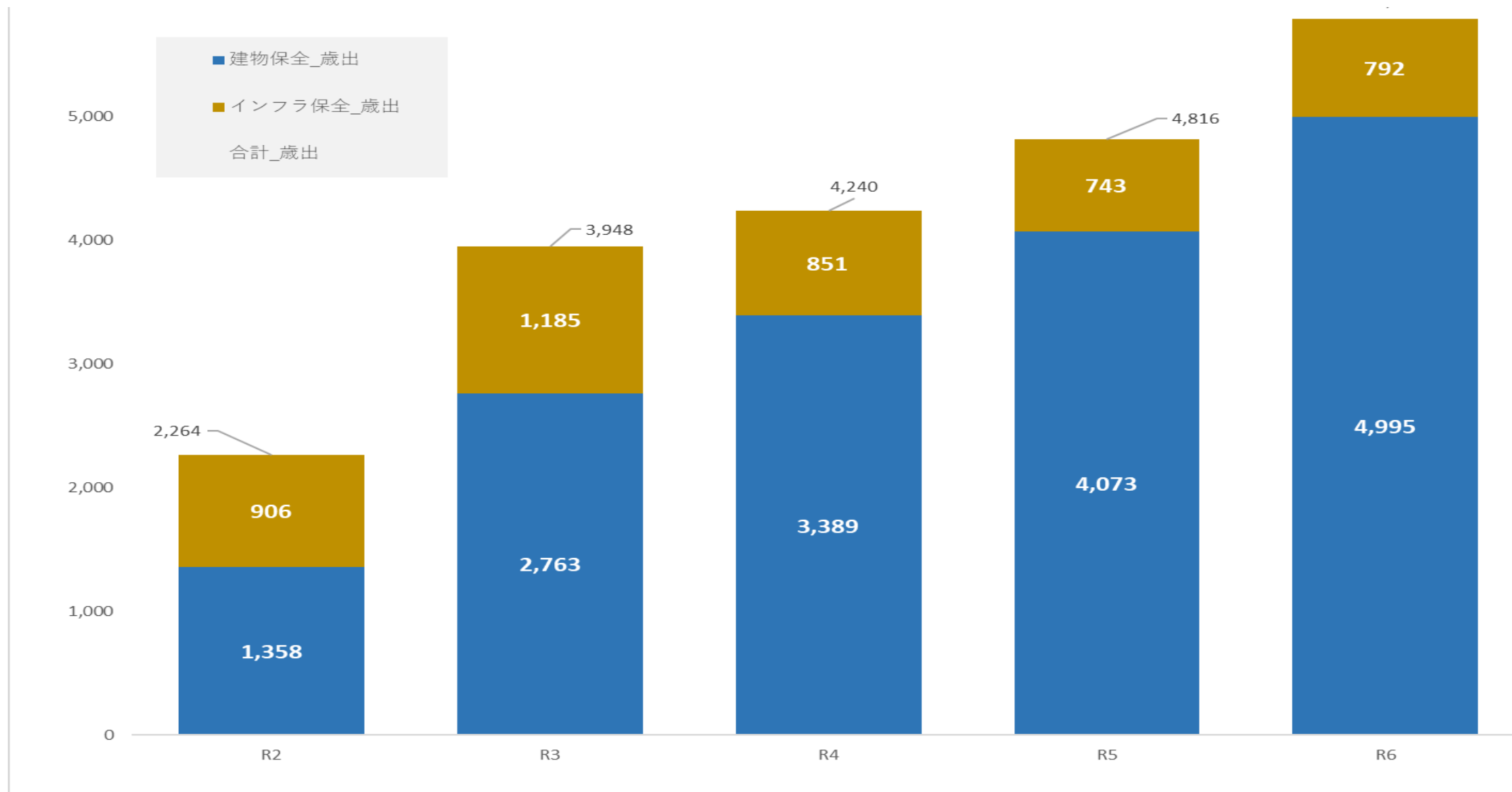
アフターコロナによる医療控えの影響がなくなったことや子育て世帯への制度拡充などによるものと考える。



●義務的経費以外は、特に繰出金の伸びが大きい
高齢化により介護や後期高齢などへの支出が増えたと考える。



●老朽改修などに予算配分出来ていなかったことを鑑み積極的に予算を配分



・ 今後増加する大型事業の影響

新病院建設

※現市立病院



開院まで
6年
令和6年度～
令和12年度

開院後、公債費完済まで
30年
令和13年度～令和42年度

経営強化プランでの概算事業費335.6億円の概ね1/2＝一般会計負担総額193.52億円（利子含む）
193.52億円÷35年＝5.52億円 ※35年＝R7からR42までの35年間一定の負担を行うとして試算

・ 年負担額 **5.52**億円 ※市負担を総務省基準どおりの1/2として

・ 今後増加する大型事業の影響



※新クリーンセンターイメージ図

■ 支払いの最終は令和44年度（2062年度）まで
工事費等は468億円（設計施工監理約5億含む）

地方債償還額は最大 **14** 億円/年

新ごみ建設_総事業費

年度別財源内訳	2062 R44	計
工 事 費 ①	0	46,778,605
国 県 補 助 金 ②	0	13,139,211
地 方 債 （ 起 債 ） ③	0	28,712,600
地 方 債 （ 償 還 ） ④	70,798	36,561,574
一 般 財 源 （ 暫 定 ） ① - ② - ③ + ④ = ⑤	70,798	41,488,368

・ 財政見通しについて

区 分	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)	令和15年度 (2033年度)
① W決算時歳入歳出差引（再掲）	▲ 209	▲ 2,908	▲ 2,498	▲ 2,210	▲ 839	▲ 1,232	▲ 1,374	▲ 428	▲ 179	595
単 年 度 取 組 目 安 額		1,000	700	700						
② 取 組 目 安 累 計 額		1,000	1,700	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400
歳 入 歳 出 再 差 引 （ ① + ② ）	▲ 209	▲ 1,908	▲ 798	190	1,561	1,168	1,026	1,972	2,221	2,995
X 取組後令和6年度以降収支累計額	▲ 209	▲ 2,117	▲ 2,915	▲ 2,725	▲ 1,164	4	1,030	3,002	5,224	8,219
Y 令和5年度決算見込み 財政調整基金残高	6,817									
Z 財 政 調 整 基 金 残 高	6,608	4,700	3,902	4,092	5,653	6,821	7,847	9,819	12,041	15,036

最新の本市のシミュレーションである財政見通しに、令和5年度末の財政調整基金残高を入れて試算しました。

最新の財政見通しでは単年度取組目安額としてR7で10億、R8で7億、R9で更に7億の改善を目安額としています。この目安額は、災害など有事の際にも一定の蓄えをもっておくという考えのもと、概ね財政調整基金の残高が一定規模を下回らない（仮に下回ったとしても3年以内に一定規模まで戻す）ようにするためにどのぐらい改善が必要かという視点で定めています。

基準の数値は毎年変わりますが、現時点では約47億程度が一定規模の下限となります。

上記の数値表ではR7はほぼ下限になりますが、R8, R9と下限を下回るものの、その後は基準以上となっており市で定めている財政規律の範囲内の財政運営ができる見込みです。

・ 財政見通しについて

区 分	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)	令和15年度 (2033年度)
① W決算時歳入歳出差引（再掲）	▲ 209	▲ 2,908	▲ 2,498	▲ 2,210	▲ 839	▲ 1,232	▲ 1,374	▲ 428	▲ 179	595
単 年 度 取 組 目 安 額		0	0	0						
② 取 組 目 安 累 計 額		0	0	0	0	0	0	0	0	0
歳入歳出再差引（①＋②）	▲ 209	▲ 2,908	▲ 2,498	▲ 2,210	▲ 839	▲ 1,232	▲ 1,374	▲ 428	▲ 179	595
X 取組後令和6年度以降収支累計額	▲ 209	▲ 3,117	▲ 5,615	▲ 7,825	▲ 8,664	▲ 9,896	▲ 11,270	▲ 11,698	▲ 11,876	▲ 11,281
Y 令和5年度決算見込み 財政調整基金残高	6,817									
Z 財 政 調 整 基 金 残 高	6,608	3,700	1,202	▲ 1,008	▲ 1,847	▲ 3,079	▲ 4,453	▲ 4,881	▲ 5,059	▲ 4,464

一方、上記はこのまま何もしなければどうなるかのシミュレーションです。

この場合、R7年度から基準を下回り、R9には基金が枯渇（財政調整基金が枯渇することは、予算が組めないことを意味し、歳入増が見込めない場合、歳出側の事業をとめて予算編成する事態になる。）する可能性があります。

このような状況にならないうために、目安額を設定して、事務事業見直しなどに取り組んでいるところです。